



緒方 博子さん

グラフィックデザイナーの傍ら自ら市民活動団体に関わる。参加している団体の「あっとほーむ」が作成した子育てサポートブックや小郡カフェマップなど、関わったプロジェクトは多数。デザインの力でまちづくりを支える。

まちのつくりて

note.3



応援したいまちづくりの担い手の皆さんと「まちづくりの今」を、インタビュー中心に紹介します。

☎コミュニティ推進課コミュニティ推進係
☎72-2111

得意なことが仕事に

私は子どもの頃から得意だった絵が仕事になり、デザイン事務所でロゴやパッケージの仕事に携わっていました。子育てに専念するため会社を退職。自分の好きなお店から名刺の作成を依頼されたことをきっかけにフリーで仕事を再開して、今に至ります。

人との出会いが大好き

公私で人と人とのつながりを大切にしている、フリーになってからは、人からの紹介やご縁で仕事を広げていきました。私は人が大好きで、今の仕事のスタイルを気に入っています。

そんな私に話が届いたのは、後に参加することになる「あっとほーむ」という団体からでした。その依頼は、子育て中に受けられる公的な支援制度や相談機関をまとめたサポートブックのデザイン。この出会いが、私のスキルを誰かの暮らしのために生かそうと思ったきっかけです。

デザインがつないだ仲間

「あっとほーむ」は、発達障がいなどの特性があつて困り感をもつ子どもを育てる保護者の居場所づくりをしていて、メンバーも当事者です。私も身も当事者の一人で、子育てに悩んだことがあります。そんなときに誰かに話したり相談したいと感じていた経験から、思いを共有し活動に参加することに。デザインを仕事にしていたからこそ出会えた仲間です。

サポートガイドブック「つなぐてとて」



「あっとほーむ」のメンバーの思いが詰まった子育てサポートブックは、令和元年に完成。クラウドファンディングにも挑戦し、大きな反響がありました。緒方さんは全体のデザインを担当。

私とまちとデザイン

サポートブックは、悩みを抱えている人にお守りとして持つてもらいたい冊子です。デザインは手に取りやすい雰囲気と情報が入りやすい構成を意識しました。実は、表紙の題字は私の息子が描いたもので、全体の温かなイメージ作りを助けてくれました。

より良いデザインのため、寄り添って相手を知ることが大切になっています。なので私は、打合せより雑談の方が長くなるタイプです(笑)

小郡に住んで18年。デザインを仕事にしていたことが、私をまちづくりに導きました。小郡の人やまちが好きな私の周りには「小郡を盛り上げたい！」という同じ思いの人が不思議と集まり、その人たちのプロジェクトにデザインという形で関わることができています。また「誰かを助けたい」という思いも今の仕事に結びついているように感じます。仕事を越えた人との関わりを築いてくれた多くのご縁に感謝しています。

みんなの居場所をつくりたい

私には「誰もが気軽に集まって生き生きと居心地よく過ごせる場所を作りたい」という夢があります。亡くなった祖母が営んでいた「駄菓子屋」のような場所が理想です。デザインの力を使うと、色々なことを整えることができ、より豊かなものにする事ができます。これからは、その人の暮らしや人をつなぐ場もデザインしていきたいと思えます。

緒方さんがデザインした ロゴやチラシ



【雑貨・カフェ】小郡まっぴ